

いまさら聞けない“金融経済”シリーズ vol.2

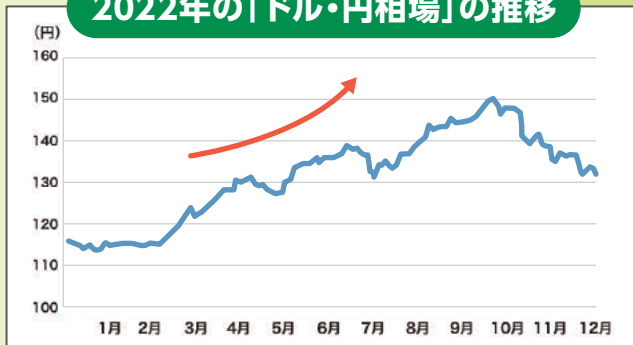
<前回のおさらい>

今回のテーマ

円安の要因

～2022年の事例をもとに～

2022年の「ドル・円相場」の推移



ここ最近の物価上昇

左のグラフの通り、
昨年は為替相場が
大きく動いておるな。

2022年から続いている物価上昇
の一因は急速な「円安」
だったことを
学んだぞ!

それでは
レッツゴー
じゃ!!

みんな、久方ぶりじゃの。わしのこと覚えておるかな? ドクターロウキンじゃ。前回から始まった「いまさら聞けない」金融経済「シリーズ」。前は円高と円安の基礎的な部分を学んでもらったが、今回は**2022年に進行した円安について要因を解説しながら理解を深めていくぞよ!**

2022年に円安が進んだ主な要因 → 日本と米国の金利差拡大

円安が進んだ要因の
詳しい解説の前に
ここでみんなに
質問じゃ!

お金を預ける場合
次のどちらを選ぶ??

① 金利**3%**の預金商品

② 金利**0.5%**の預金商品

おそらくほぼ全員が①を選択したのではないかな?

当然、お金を預けるなら「金利が高い」=「利息が多い」方がお得じゃな。これが円安につながっていく重要なポイントであるぞ。

また、「円」の動きを見る上で大事なものは、**基軸通貨「ドル」を発行している米国との比較**じゃ。

「経済の基礎体温」とも評される長期金利の代表的な指標として使われている「10年国債」について2022年の日本と米国それぞれの金利を見ていくぞ!

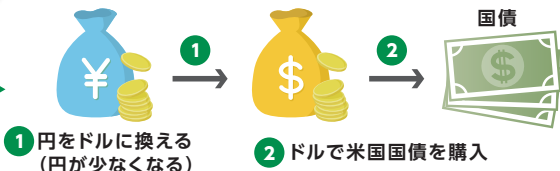
2022年の日米10年国債の金利



グラフから読み取れること

日本の金利は年間を通じてほぼ横ばいじゃが、米国は2倍以上金利が上昇しておるぞ! 金利差が広がることによって、「ドル」に魅力を感じ、「ドル」を保有する(資金を移す)人や企業が増えたんじゃ!

米国国債を購入する時の
お金の流れ



これにより「円」を保有する人・企業が少なくなっていくぞ...

この「円」から「ドル」へ資産を移す動きが、「円」の相対的な価値の減少に繋がり、円安の要因となったんじゃ!

グラフを見て、なぜ日本は金利が横ばいなのか...、そう疑問を持った人も多いのではないかな? これは、**日本と米国の「金融政策」の違いによるものなのじゃ!!**

日本と米国の金融政策



物価の安定=2%程度の物価上昇
物価上昇には経済成長が必須
経済成長の起爆剤とすべく、金融緩和(金利の低位安定)を続けている



歴史的なインフレが起こったことにより、インフレの抑制が必要
そのため、政策金利の引き上げを行い、景気の過熱を抑制している

この両国の金融政策の違いが
“金利差の拡大”を
引き起こしたのじゃ!!

なるほど!

さらに!!

その他の要因

2022年2月24日から始まった「ロシアによるウクライナ侵攻」も「円安」の要因じゃ。
世界の原油の12%を生産しているロシアへの経済制裁により原油の供給が減少(原油価格の上昇)したのじゃ。
日本では原油価格の高騰により、経常収支(財貨やサービスの輸出入差額)が落ち込んだのじゃ。輸出入差が減少するということは、「円」が外国へ出ていく(支払う)ことを意味するぞ。その結果として「円」の相対的な価値が減少したため、円安が進行することとなったのじゃ。



今回は「円安」について2022年の事例を基に見てきたが、ちゃんと理解できたかな?

私たちの生活に不可欠な「モノやコト」の価格にも円高や円安が大きな影響を及ぼしているんじゃな。日本だけでなく、世界で“今”何が起きているのか、ニュースや新聞等で注目してみると、また違った見え方をするかもしれませんな。

引き続き、一緒に学んでいこうぞ!
ではまた次回!!